

ジイジ・バアバ、
パパ・ママへ贈る

心 の め ば え

アヤと過ごすジイジの日記

<12>

著者／牟田 泰三
挿絵／橋本 礼子

3歳9カ月
フリスビー

アヤのような幼児はとても物覚えが良い。年老いたジイジは先ほど聞いた名前でもすぐ忘れるが、幼児は幼稚園のお友達の名前など(名字と名前の両方とも)正確に覚えていて、すぐに〇〇ちゃんなどと言う。それでも、時々、一度聞いたことを忘れることもあるらしく、また問い直すこともある。

今日は公園でドッジボール遊びのあとで、アヤにとつて生まれて初めてのフリスビーをやった。フリスビーが少々重いのか、まだあまり遠くには投げられないが、とても面白かったらしく、大喜びで長いことやっていた。

「これはフリスビーっていうんだよ」と教えてあげたけど、その後で珍しく忘れてしまったらしい。そこで普通なら「あの丸い平たい遊具、なんて言うんだっけ」と聞きそうなものだけど、アヤはそうではない。

ジイジと手をつないで帰っていく道すがら、「今日遊んだドッジボールともう一つはなんだった？」と聞いてくる。

「えっ、ああ、あれはね、フリスビーっていうんだよ」と答えたものの、へー、こんな間接的な聞き方をするようになったのかと驚いた。



3歳11カ月
おあずかり

昨夜の大雨で交通状態がよくないので幼稚園はお休みになった。アヤのママからバアバに電話で「アヤがバアバのところに「おあずかり」してもらいに行くと言ってます。連れて行ってもいいですか」とのこと。

「おあずかりしてもらおう」というのはどういうことかと瞬考えさせられた。アヤは遊びに行くという言葉は知っているはずで、おあずかりしてもらおうというのは、遊びに行くというのとどう違うのだろう。きつと、アヤの中では「遊びに行く」と「おあずかりしてもらおう」のは区別されているのに違いはない。

ママがよく「ちよつと〇〇する用事ができましたので、アヤを預かってもらっていいですか」と頼んでいたりするのを聞いていて、これを応用したのであらう。「おあずかりしてもらおう」とちゃんと受け身文にしているのには驚く。「遊びに行く」と「おあずかりしてもらおう」のでは、滞在時間の長さの違いだけでなく、バアバの家にいるときの内容も違っているのだろう。

後で気が付いたことであるが、働いているお母さんなどが、幼稚園に我が子を迎えに行くのがちよつと遅くなるときは、幼稚園にお願いしてその子を預かってもらうことができて、そのような場合、「おあずかり」と言うそうである。どうやら、この言葉を応用したようである。

ジイジの
気付き



知識の広がり知恵を生む。

ジイジへのお便り

プロフィール むたたいぞう 1937年、福岡県生まれ。
九州大学理学部卒業、東京大学大学院物理学専攻修士、
理学博士。京都大学助手・助教授、広島大学教授・学長、福
山大学学長などを歴任。主な著書に「語り継ぎたい湯川秀
樹のことば」(丸善出版)、「電磁力学」(岩波書店)、「量子力
学」(裳華房)などがある。東広島市在住。

エッセーを読んだ感想などを、お寄せください。
weekly@pressnet.co.jp
「心のめばえ」係へ

連載中の「心のめばえ」シリーズは、牟田のホームページでも読むことができます。<https://home.hiroshima-u.ac.jp/mutata/>